

## 第67回けんこう教室開催レポート

9月21日(土)に当院大会議室で第67回けんこう教室を開催いたしました。当日は雨も心配されましたが、降雨も殆どなく、92名の方にお集まりいただきました。

今回は、消化器外科部長の森幹人医師(国際医療福祉大学 消化器外科主任教授)が講師を務め、「胃がんについて知っておきたいこと。一胃がんの疫学・診断・治療」と題して講演を行いました。がんの罹患者のなかで胃がんは男女合計では13万4650人で、大腸がんに続いて2位であり、死亡者はがんの中で男女合計では4万5226人で3位となっており、胃がんにならないようにするため、また早期発見のために胃がんのことをよく知ることは大切なことといえます。

講演は胃の位置や構造、役割や働きについての説明から始まりました。続いて、胃がんの発生リスク因子として、喫煙、高塩分食品の摂取、多量の飲酒、ヘリコバクターピロリ菌感染などがあることを説明していました。早期発見が一番ですが、胃がんは早期ではほとんど自覚症状がありません。早期発見には健診や人間ドックが大切です。診断には、胃X線検査、内視鏡検査(上部消化管内視鏡検査)、CT検査、MRI検査、PET検査などの検査が行われ、がんの深さの程度、リンパ節への転移の有無、遠い臓器への転移の有無によってI期からIV期の進行度に分類されると説明がありました。



森 幹人 医師 消化器外科主任教授による講演

胃がんの治療方法はがんの進行度や体の状態から検討が行われます。治療方法としては、内視鏡的粘膜下層剥離術、外科的手術、薬物治療があります。内視鏡的粘膜下層剥離術は比較的早期の胃粘膜にとどまる胃がん用に用いられます。外科的手術は、胃にできたがんを外科的手術で切除して、つなぎ合わせて再建するものです。術前・術後に再発防止のために行われたり、切除不能な場合に行われる薬物治療があります。薬により進行が止まる場合もありますが、効果が見られない場合は薬を変えなければいけないとのことでした。

講演では、患者様の症例や、実際に手術をした際の映像が紹介されました。来場者は熱心に記録映像を見ていました。

講演の最後に、資料で当院の消化器外科チームについての説明があり、来場者で胃がんが気になる方へ受信を促したり、健診、人間ドックを進めていました。また、ご来場いただいた来場者からの質問には丁寧に、率直に答えていただきました。



小河 裕樹 理学療法士による体操

講演に続いて、小河 裕樹 理学療法士による簡単なリハビリ体操を紹介しました。来場者の皆さんは熱心に取り組んでいました。

### 次回の予定

○第68回けんこう教室 10月19日(土) 10:30から

**皮膚がんってどんな症状なの??? ~皮膚がんの早期発見について~**

講師 市村 洋平 (皮膚科 医師 国際医療福祉大学 病院助教)

○第69回けんこう教室 11月2日(土) 10:30から

**口から安全に食事を摂る仕組みと「口から安全に食事が摂れなくなった時にどうするか」について**

講師 稲田 晴生 (リハビリテーション科 医師)